

専教寺報

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺
〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033
TEL. 0866-82-0488
URL. <https://www.senkyoji.com/>
E-Mail. senkyoji@senkyoji.com

題字 大橋曾水



ご挨拶

住職 釋 龍生

新年あけましておめでとう
ございます

今年もよろしくお願
い
申し上げます

お正月の料理といえば、おせち料理である。色とりどりの食材が、とても煌びやかで目の保養にもなり、何重もの御重に入っている感じが、新たに新年を迎えた緊張感や高揚感をもたらしてくれる。毎年のことであるが、何から箸をつけようかと迷ってしまふほどの、一年で最初のご馳走である。しかしおせちのような

ご馳走に匹敵する食べ物
が、この世には存在
する、と個人的には思っ
ている。

「おせちもいいけどカ
レーもね」というフレ
ズを流すレトルトカレ
ーのCMが、子供の頃、
正月の時分によく流れ
ていた。今でもこのフ
レーズを、正月を迎え
る度に思い出すことが
ある。

カレーという食べ物
は、それぞれ家庭の味
があつて、味に関して
は、まずはずれること
が無い。福神漬か、らっ
きょうを皿に添えて食
卓にのぼるカレーは、
いつもの味で安心して
頬張れる。初老に差し

掛かる年齢ではあるが、
変わらず大好物な食
物である。

山陽新聞に、「孤高の
グルメ」の作者、漫画家
の久住昌之氏について
の記事を見つけた。久
住氏は「アンソロジー
カレーライス」とい
う本の中で、
カレーライスは危険な
食べ物だ。

あの匂いには、食意
地を凶暴化させる何か
がある。空腹時に吸引
すると食欲が瞬間沸騰
する。
家でカレーライスをや
ると、絶対に二皿以上
食べる。腹が完全にい
っぱいになるまで食べな
いと、納得しない。(中

略)ガツガツ食う。
と語られる。わたしも同
感である。カシャーという
食べ物、私たちに家庭
の歴史ともいふべき、懐
かしさや安心感をもたら
してくれる。

浄土真宗のご本尊、ア
ミダさまは、私たちが人
生を歩んでいく上で、
安心して生きてゆける、
死んでゆける、そんな故
郷とも言うべき還る場所
を、ご用意くださってい
る。それは私たちが救い
仏とならしめるための渾
身の願い(ご本願)を叶え
て、建立されたお浄土で
ある。そしてアミダさま
は、私たちを救うと誓っ
て完成された、真実のお
はたらき(お念仏・南無

阿弥陀仏)を常に届けて
くださっている。そのア
ミダさまのおはたらきに
よって、還っていく場所
が確実に用意されて、救
われていくことが確実に
約束されている。まさに
蓮如聖人の「御文章」聖人
一流章にある、
仏のかたより往生は治定
せしめたまふ
ということである。

私たちは皆、娑婆とい
う苦海を一生懸命泳いで
泳いで、泳ぎきろうと、
辿り着けるかどうか、あ
るかどうかも分からない
岸をめがけて、迷いなが
ら生きている。しかしア
ミダさまは、そんな私た
ちを優しく抱きしめなが
ら、「必ず救う、我にま

かせよ、だから安心して、
思い切って人生を全うし
てゆけ」と、この身に寄
り添って道筋をお示しく
ださる。私たちはアミダ
さまが、そんな迷いに満
ちた逡巡を吹き飛ばすか
のように、いつも背中を
押してくださいさっているこ
とを忘れてはならない。

今年「御生の一大事」
という言葉を噛みしめな
がら、アミダさまから常
にいただく救いのおはた
らきに感謝して、安心し
て二心なく素直にお念仏
をいただく。そんな一年
にしたい。



仏教讃歌

毎月第2火曜日 午後1時30分～(変更あり)

講師：奥野 純子 (ソプラノ)

ご近所の門信徒を誘って、ぜひご参加ください。

お待ちしております。



坊守

佐々木 ひろみ

あけましておめでとう
ございます

昨年は大変お世話にな
りました

本年もよろしくお願
いいたします

昨年は、元旦会、永代
経法要、報恩講法要など
の大きな法要が無事勤修
されました。また、それ
ら法要前の奉仕作業では、
たくさんの方にお世話に
なりました。

振り返ってみますと、
ご縁だなあと思うことが
数々ありました。

昨年の報恩講法要のご
講師は、佐賀県の先生、

また、一昨年のご講師は、
大分県の先生でした。個
人的なことなのですが、
私の父方の祖父母は佐賀
県、母方の祖父母は大分
県におりました。滋賀県
に住んでいた私にとって
は遠方で、年に一回ぐら
いしか行けませんでした
が、とても懐かしく、い
い思い出がたくさんある
地です。法要が終わって、
ご挨拶に行った際、その
ような話をすると、どち
らのご講師も、「ああ、
そうでしたか。それは、
ご縁ですね。」とおっしゃっ
て、「近くには・・・が
ありますね。私もよく知っ
ていますよ。」などと、
温かく受け入れてくださ
り、楽しく会話ができま

した。とてもうれしい気
持ちになりました。

日頃から、お寺や仕事
関係で、人と出会うこと
は多いほうだと思えます。
その方々と少し話してみ
ると、共通の人や場所で
つながることが多々あり
ます。よく「世間は狭い
ね。」と言いますが、こ
れも「ご縁」だと思いま
す。

急に心が明るくなるよう
なものではありませんが、
阿弥陀さまの救いがいつ
もはたらいてくださって
いると思うと、心の底が
温かく、いつでも安心し
て過ごすことができます。

今年も、「ご縁」に感
謝して、過ごしていきたい
と思います。

このように、人との
「ご縁」に出会うと、心
がパッと明るくなり、
「明日も頑張ろう」とい
う元気すら湧いてきます。

私たちは、「南無阿弥
陀仏」のおはたらきとい
うご縁により、阿弥陀さ
まに見守っていただいで
います。前述のように、



挿絵 内村 壽美子

光壽無量

新年あけましておめでとうございます
旧年中はお世話になりました
本年もよろしく願い申し上げます
令和7年 元旦

一乗山 専教寺 総代・仏婦役員一同

専教寺からのお知らせ

仏教讃歌（毎月第2火曜日）
※日時変更あり
1月14日（火）午後1時30分～

永代経法要

4月27日（日）時刻未定
決まり次第、お知らせいたします

